

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和7年3月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和7年3月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場池先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

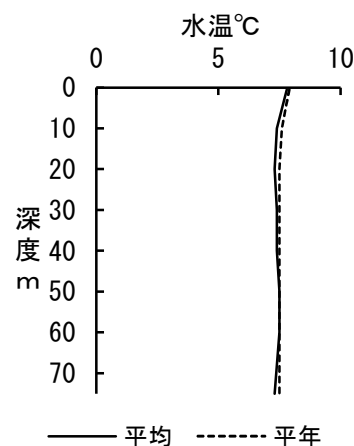
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 3月平均値 6.2m 平年値 6.4m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	7.8	7.9	-0.1
10	7.4	7.6	-0.2
20	7.3	7.5	-0.2
30	7.4	7.5	-0.1
40	7.4	7.5	-0.1
50	7.5	7.5	+0.0
60	7.5	7.5	+0.0
75	7.3	7.5	-0.2



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
2月下旬	6.9	7.2	-0.3
3月上旬	7.6	7.8	-0.2
3月中旬	9.0	8.3	+0.7

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0～10	1.9	5.3	-3.4
10～20	1.1	2.3	-1.2
20～40	1.0	1.8	-0.8
40～75	0.5	1.4	-0.9

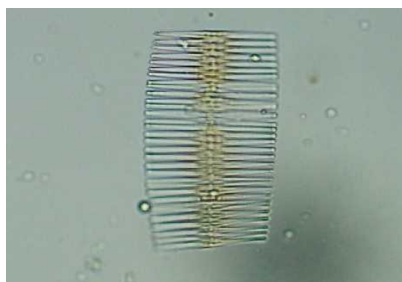
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

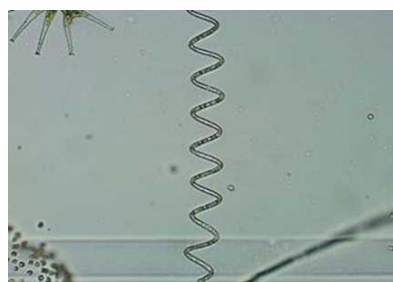
○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、地点Iで*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が、地点IVで*Aulacoseira ambigua f.japonica*(スジタルケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis



Aulacoseira ambigua f.japonica



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	3月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.8	99.6	11.6	99.5	0.2	(+0.1)
10	11.6	97.1	11.5	96.8	0.1	(+0.3)
20	11.5	96.1	11.3	95.7	0.2	(+0.4)
30	11.5	95.4	11.3	95.1	0.2	(+0.3)
75	11.4	95.1	10.6	89.2	0.8	(+5.9)